

8-4-8 ダム・発電専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会開催回数：9回

地質分科会開催回数：9回

(2) 協会活動への協力・支援

「照査特別WG」に参画し、ダム分野におけるエラー事例の収集と要因分析に基づく品質セミナーのテキスト作成に協力した。

また、当協会が(一財)全国建設研修センターと共催する「ダム総合技術研修」への講師2名派遣、対応等を実施した。

「CIM導入ガイドライン(案)第4編 ダム編」の作成に対応した。

(3) 若手技術者を中心とした討論会・講演会

平成18年度より若手技術者による自主的な企画に基づく勉強会を継続して開催している。平成28年度は5名の若手技術者による準備WGを5回開催したうえで、11月8日に「近年のダム設計・施工事例(課題と対応策)」をメインテーマに業務事例発表会を開催した。また(一財)ダム技術センターの安田成夫技術第一部長から「既設及び施工中の台形CSGダムの事例紹介と基本的考え方」に関して講演をいただいた。参加者は総勢41名であった。業務事例は、再開発に関する事例3件と国内最大規模の取水設備や台形CSGダムに関するタイムリーな業務トピックスが紹介され、講師を交えた率直な意見交換を行った。

(4) ダム工事総括管理技術者会との意見交換会

平成13年度からダム工事総括管理技術者会(CMED会)からの呼びかけに応じ、年1回意見交換を行っている。平成28年度は、11月22日に開催し、ダム・発電専門委員会からは「ダムの試験湛水時の漏水に対する調査、対策事例について」、「ダムの維持・管理におけるCIMの適用性について」の二つのテーマについて事例の紹介を行った。CMED会からはダム現場における問題点やシニアエンジニアによるダム工事の技術支援に関する発表があった。意見交換会には、

専門委員に加え、各社設計実務担当者も参加し、参加者は16名であった。CMED会の常任幹事および(一財)日本ダム協会から総勢16名が参画し、意見交換を行った。

(5) ダム現場見学会の開催

年1回ダム地質および設計技術者を対象に建設中のダム現場の地質を中心とした見学会を行っている。平成28年度は、10月6日～7日に建設中の八ッ場ダム、管理中の品木ダム(共に関東地方整備局:重力式ダム)を見学した。参加者は22名であった。

(6) 地質技術報告会の開催

年1回主に地質技術者を対象に技術報告会を行っている。平成28年度は、8月20日に「応用地質学における弱層の捉え方」をテーマに掲げ、岡田篤正 京都大学名誉教授による招待講演、技術報告を実施した。参加者は196名であった。

技術報告では、「ダム基礎に分布する熱水変質を伴う断層破碎帯」、「施工に伴う岩盤物性の評価」、「断層の構造運動評価」、「断層破碎帯の土质地質上の問題点と強度」について発表があった。また前述のダム現場見学会の地質の報告が行われた。そして、招待講演内容とあわせ総合的な討論を行った。

(7) ダムなんでも相談室への参画

「丸の内キッズジャンボリー」(8月16日～8月18日)の期間中、啓発活動としてダム工学会が開催する「ダムなんでも相談室」にダム博士を派遣し、運営の協力を行った。ブース来訪者は、会期3日間で約800名であった。

(8) ダム技術講習会の開催

平成28年度は、「技術者と工学の発展のためのダム技術論」をテーマとした技術講習会を9月20日に開催した。講師は、(一財)ダム技術センターの川崎秀明首席研究員で、ダムのリスク管理や過去の失敗例から学ぶことなども含めて講演いただいた。31名が参加した。

2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施する。

(ダム・発電専門委員会委員長 小林 裕)